

カナダ -政策金利据え置き-

<政策金利据え置き>

9月3日、カナダ中央銀行は政策金利を1.00%で据え置きました。

今回の声明文では「全般的にインフレ見通しに対するリスクはおおむね均衡している。ただ、家計の不均衡に関連するリスクは縮小していない」としており、家計の不均衡について懸念を示しています。

6月の消費者物価指数(CPI)は前年比+2.4%と約2年ぶりの高水準となりましたが、エネルギー価格の上昇やカナダドル安などの一時的要因が一巡した7月のCPIは中銀の予想通り同+2.1%へと低下しました。

今後の政策金利の方向性や変更時期については、これまでと同様に経済情勢次第としています。

<カナダドルはやや上昇>

8月以降のカナダドルは対米ドルでほぼ横ばいで推移しています。米国の景気回復により利上げ観測が持ちあがっていることから、米ドルが対円で大きく上昇し、カナダドルは対円で上昇しています。

政策金利据え置きの発表後、カナダドルはやや上昇しました。9月3日海外終値は、1米ドル=1.089カナダドル、1カナダドル=96.24円となっています。

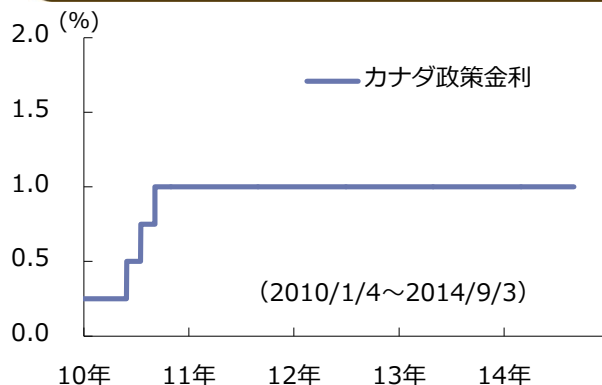
<今後の見通し>

CPIが中央銀行の目標レンジのなかで推移していることを考えると、政策金利はしばらく据え置かれる公算が高いと思われます。

先日発表された第2四半期のGDPは前四半期比年率+3.1%と予想(+2.7%)を大きく上回りました。米国の力強い設備投資とこれまでのカナダドル安効果から輸出が大きく増加したことが寄与しました。

今後も、カナダ経済は持続的な成長が見込まれるため、カナダドルは底堅く推移するものと思われます。

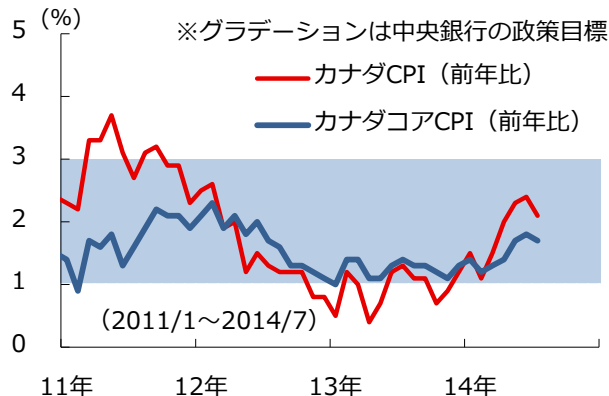
<政策金利の推移>



<カナダドルの推移>



<消費者物価指数>



出所: Bloomberg

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号
加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会